

公立保育園の運営のあり方に関する方針見直し骨子（案）

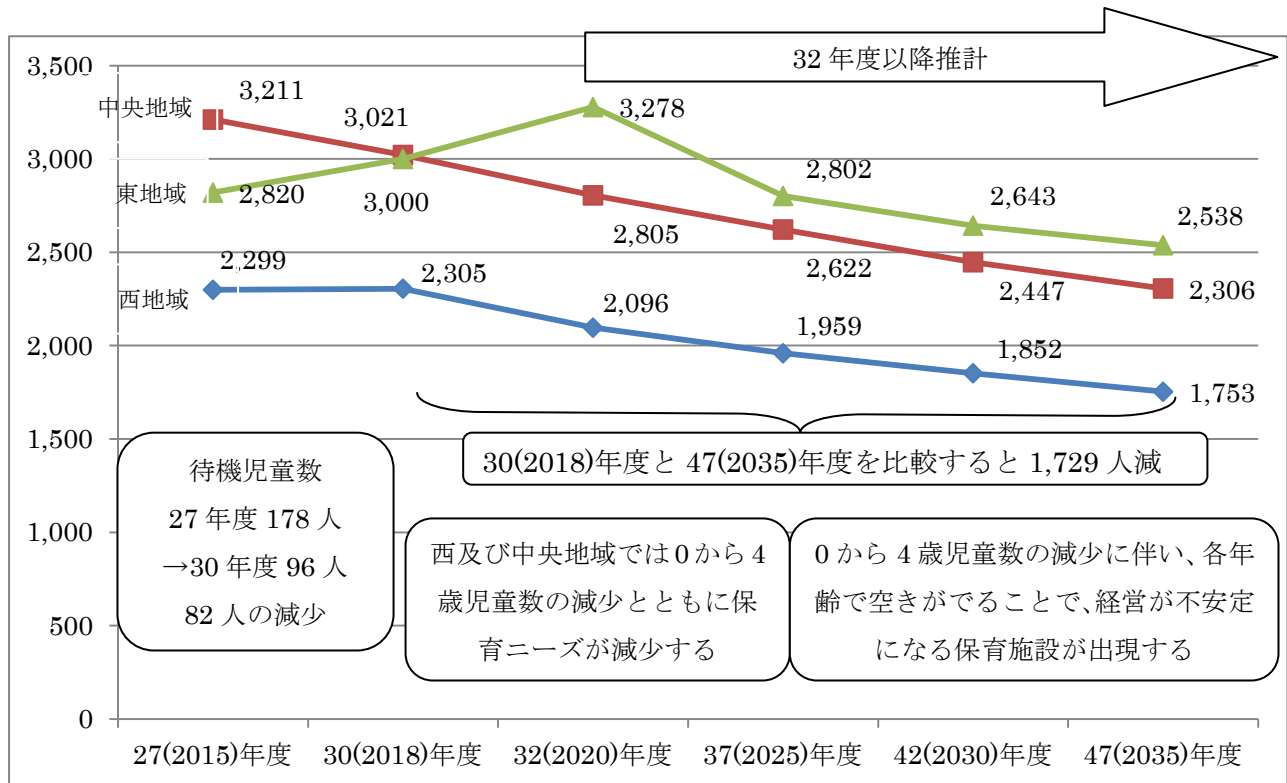
1 保育を取り巻く状況

(1) 保育ニーズの状況

待機児童数は減少傾向にあるものの 1, 2 歳児において待機児童数が高い水準となっており、さらなる対策が必要である。一方、徐々に就学前児童数は減少していくことが推計されている。

図表 1 0 から 4 歳児の人口推計

単位：人



※27(2015)年度及び 30(2018)年度は 4 月 1 日現在の住民基本台帳

※32 年度以降は平成 27 年国勢調査による小平市町丁別将来人口の数値

図表 2 保育サービス利用数の推計

| 年度        | 30(2018)年度                      | ～   |     | 47(2035)年度      |
|-----------|---------------------------------|-----|-----|-----------------|
| 就学前児童数    | 10,062 人                        |     |     | 7,916 人         |
| 保育サービス利用数 | 4,050 人<br>(保育サービス利用率<br>40.3%) | 利用率 | 40% | 3,166 人(884 人減) |
|           |                                 |     | 45% | 3,562 人(488 人減) |
|           |                                 |     | 50% | 3,958 人(92 人減)  |

※就学前児童数は 30(2018)年度は 4 月 1 日現在の住民基本台帳、47(2035)年度は小平市人口推計報告書の 0～4 歳児の人口に 1.2 を乗じた

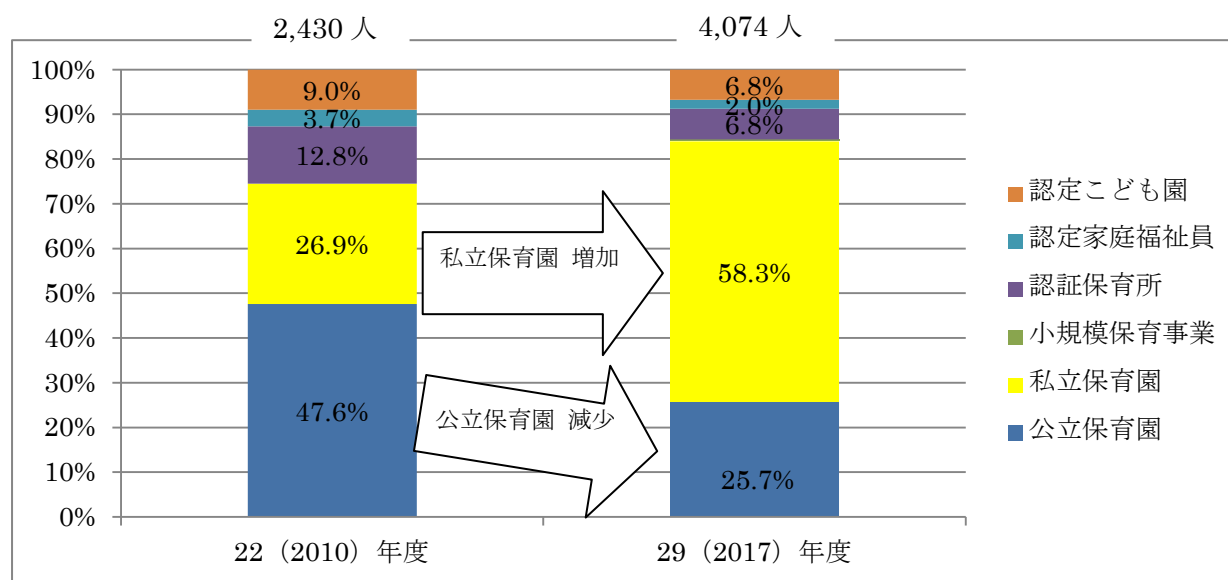
※保育サービス利用数は認可保育園、地域型保育事業、認定こども園、認証保育所等を合わせた数

## （２）保育施設の状況

22（2010）年度と 29（2017）年度の定員数を比較すると 2,430 人から 1,644 人増の 4,074 人となっているが、この内公立保育園の定員割合は全体の 25.7%であり、民間保育施設が保育の受け皿の大半を占めている。

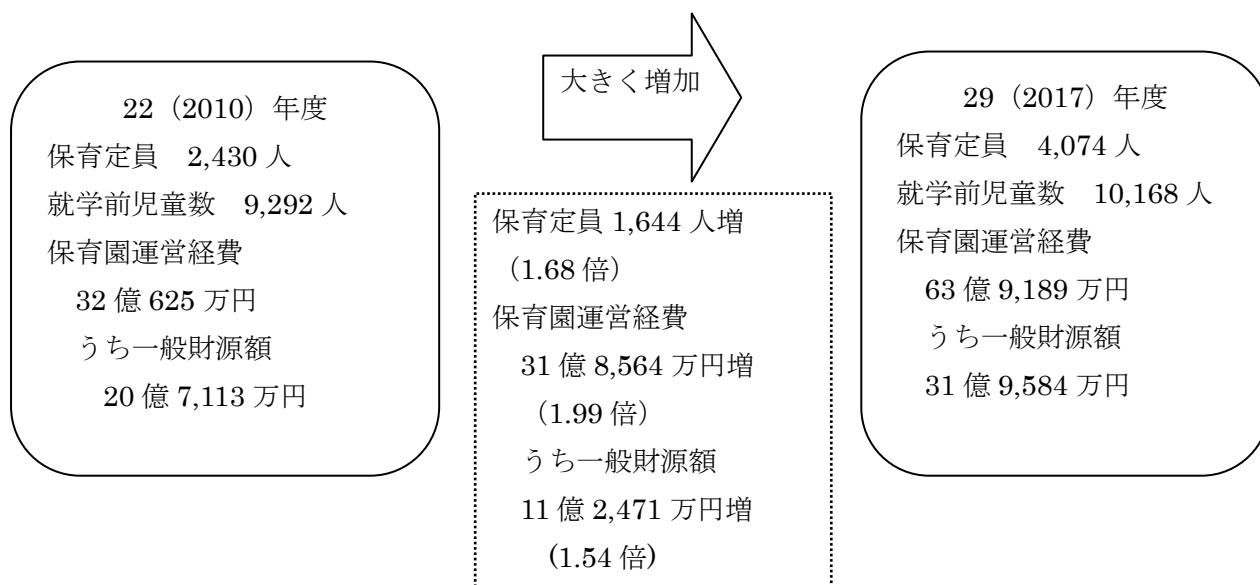
図表 3 保育施設の定員割合

単位：％



## （３）市財政の状況

待機児童対策として私立認可保育園等を整備してきたことから、保育園運営に要する経費は 22（2010）年度の 32 億 625 万円から 29（2017）年度は約 32 億円増の 63 億 9,189 万円となっており、市財政運営を逼迫させている。



## 2 これまでの「公立保育園の運営のあり方に関する方針」の検証

### (1) 公立保育園の役割の充実

#### ①地域の子育て支援の充実

28（2016）年度より、公立保育園6園に地域支援担当保育士を1人ずつ配置し、子育てふれあい広場など地域の保護者等に対して子育て支援事業を積極的に実施している。また、小規模保育事業や家庭的保育事業の連携施設としての役割も担っている。

| 事業名                | 内容  | 28（2016）<br>年度 | 29（2017）<br>年度 |
|--------------------|---|----------------|----------------|
| なかよし<br>パーク        | 月に1回、1時間の開催で、公立保育園や公民館等市内各所で、就学前の児童とその保護者を対象としたイベントを実施          | 12回<br>(104人)  | 12回<br>(116人)  |
| 子育てふれあい<br>広場等イベント | 公立保育園で実施されるふれあい広場の中心的役割を担うとともに、地域センター等で行われる子育てふれあい広場に参加し、連携を深めた | 28回            | 51回            |

#### ②認可外保育施設への支援体制

認定家庭福祉員との交流を進め、運営が安定的に行っていけるよう、サポートを行っている。

| 認定家庭福祉員を訪問 | 28（2016）年度 | 29（2017）年度 |
|------------|------------|------------|
|            | 23回        | 46回        |

#### ③障がい児、発達が気になる児童の保育の充実

障がい児、発達が気になる児童については介助員を配置するなど、可能な限り集団の中で生活できるよう配慮している。

| 介助員配置 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|-------|------|------|------|------|------|
|       | 47人  | 42人  | 47人  | 39人  | 32人  |

#### ④多様な保育サービスの提供

花小金井保育園で「一時預かり事業」を実施しているが、多様な保育サービスの提供については比較的私立保育園の方が充実している。

|           |     | 0歳児保育  | 延長保育   |       |         | 一時預かり | 定期利用 |
|-----------|-----|--------|--------|-------|---------|-------|------|
|           |     |        | ～19時   | ～20時  | ～20時30分 |       |      |
| 公立<br>保育園 | 施設数 | 5      | 9      | 0     | 0       | 1     | 0    |
|           | 実施率 | 55.6%  | 100.0% | －     | －       | 11.1% | －    |
| 私立<br>保育園 | 施設数 | 33     | 19     | 13    | 1       | 9     | 3    |
|           | 実施率 | 100.0% | 57.6%  | 39.4% | 3.0%    | 27.3% | 9.1% |

## (2) 公立保育園の運営方法の見直し

28 年 4 月をもって、小平市立鈴木保育園をすずのき台保育園という民間事業者が運営する保育園に移行しました。

### ①公立保育園の役割の充実

私立保育園の移行により、人員を再配置することで、地域支援担当保育士の配置、一時預かりの定員拡充（5 人→7 人）を実施し、公立保育園の役割の充実を図ることができました。

＜一時預かりの利用定員＞

|            | 25 年度   | 26 年度   | 27 年度   | 28 年度   | 29 年度   |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 花小金井保育園    | 524 人   | 1,045 人 | 1,146 人 | 1,584 人 | 1,631 人 |
| 全体         | 5,874 人 | 6,569 人 | 7,154 人 | 7,923 人 | 7,400 人 |
| 花小金井保育園／全体 | 8.9%    | 15.9%   | 16.0%   | 20.0%   | 22.0%   |

### ②保育サービスの拡充

すずのき台保育園では公立保育園では行われていない午後 8 時までの延長保育を実施するとともに、鈴木保育園では実施していなかった 0 歳児保育を実施し、保育サービスを拡充することができました。

### ③移行後の保育所運営

鈴木保育園から児童の情報や保育目標・方針を引き継いで実践していることなどから、保護者アンケートでは私立保育園への移行について、概ね満足していただくことができました。

### ④財政効果

認可保育所の整備に対する国や都の補助金は、公立保育園を除く施設を対象としています。また、公立保育園の運営費については、国と都の負担分が一般財源化され、ほとんどが市の一般財源で負担することになったため、公立保育園の建替えと私立保育園への移行を比較すると後者の方が小平市にとって費用対効果が高くなります。

## 認可保育園の保育料及び運営費の仕組み

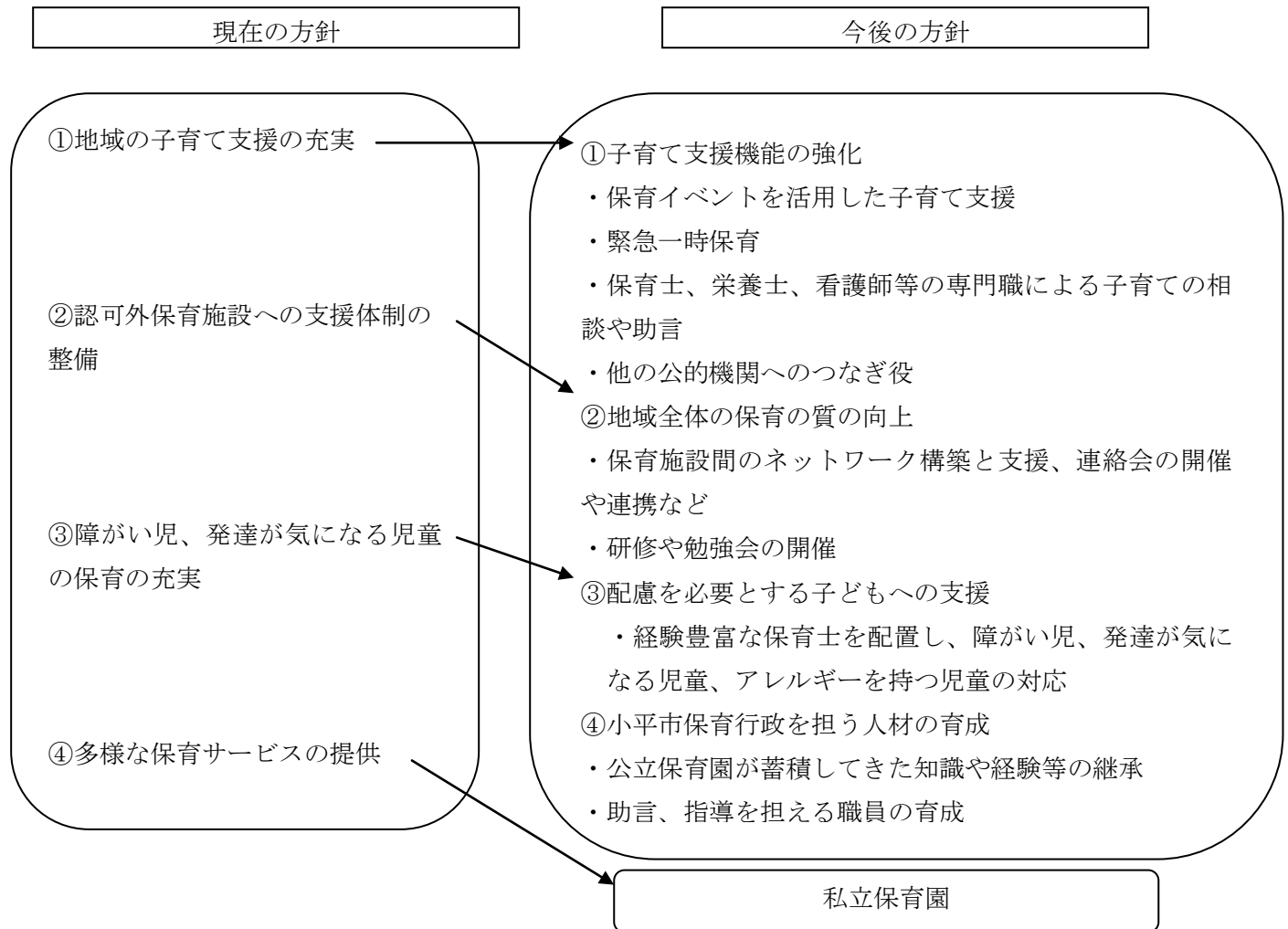
| 私立保育園     |        | 保護者負担<br>(保育料) | 市負担<br>(保育料軽減分) | 国<br>負担        | 都<br>負担 | 市<br>負担 | 都・市負担<br>(国基準超過分) |
|-----------|--------|----------------|-----------------|----------------|---------|---------|-------------------|
| 公立<br>保育園 | H15 以前 | 保護者負担<br>(保育料) | 市負担<br>(保育料軽減分) | 国<br>負担        | 都<br>負担 | 市<br>負担 | 都・市負担<br>(国基準超過分) |
|           | H16 以降 | 保護者負担<br>(保育料) | 市負担<br>(保育料軽減分) | 市負担<br>(一般財源化) |         | 市<br>負担 | 都・市負担<br>(国基準超過分) |

### 3 公立保育園が存在する意義

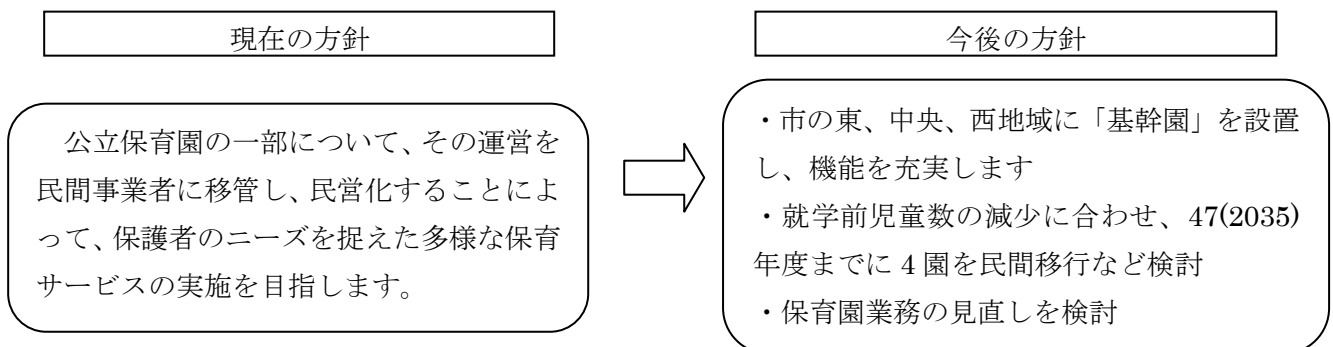
#### (1) 公立保育園の必要性

保育の質を保ちながら、保育定員の確保を図るためには財政的な裏付けが必要で、公立保育園の委託化等により、運営経費の確保を図っていく必要があります。一方、民間保育施設が増加する中で、小平市の保育の質をより充実させるために公立保育園を一定数残す必要があります。

#### (2) 公立保育園の役割の充実



#### (3) 公立保育園の運営方法の見直し



※「基幹園」→地域の子育て支援や保育施設間の連携など保育施策を推進する拠点施設して想定